

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日は、日本の南の高気圧が沖縄・奄美付近へ張り出し、別の高気圧が日本の東へ移動する。
- 21日から23日は、前線が日本海から北日本付近へのびる。
- 23日から24日は、日本の東の高気圧が日本の南に張り出す。

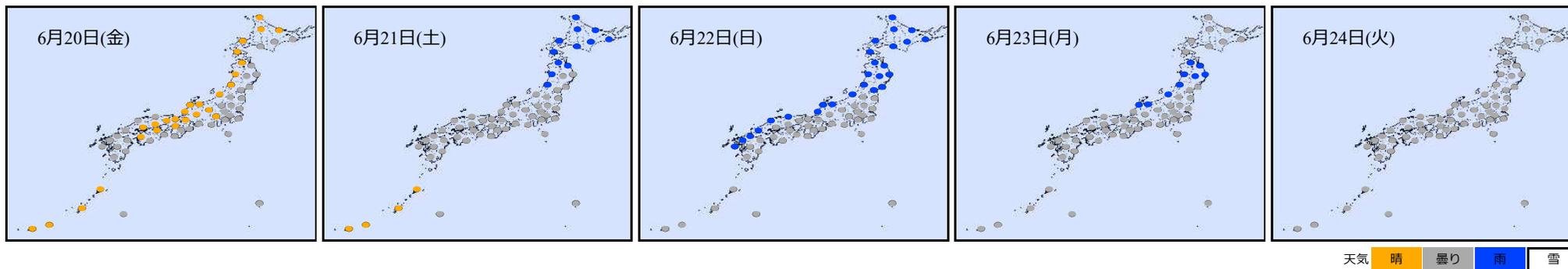
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、20日は最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

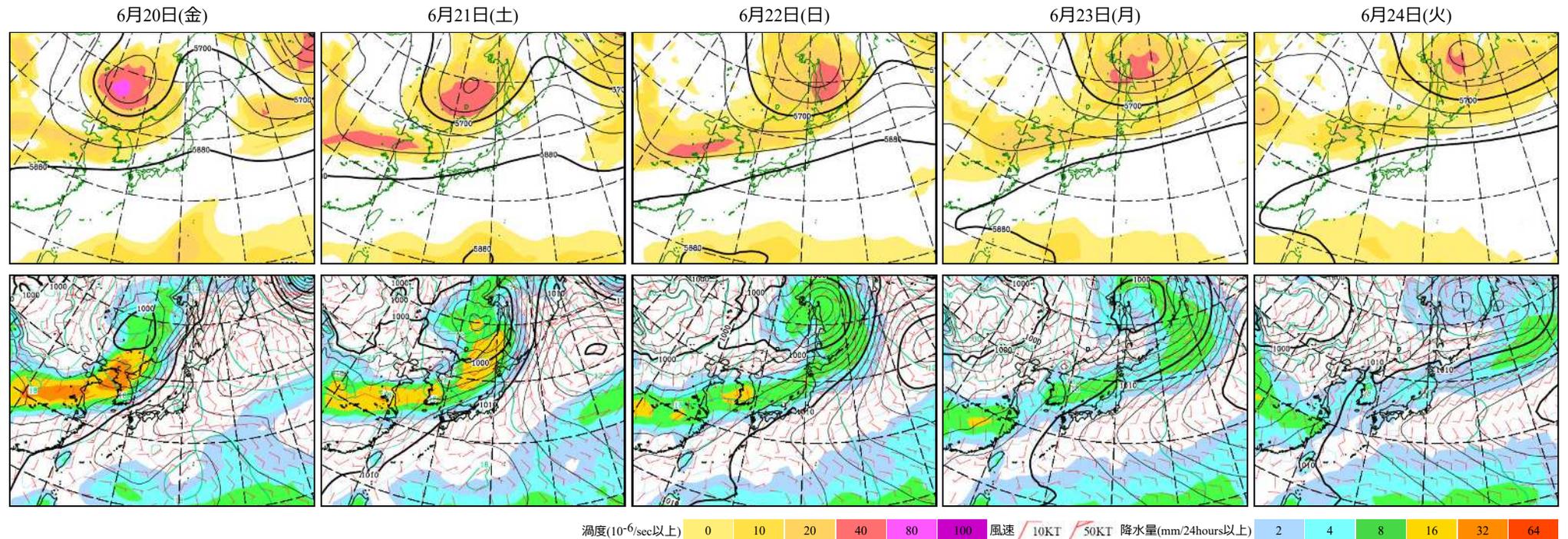
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

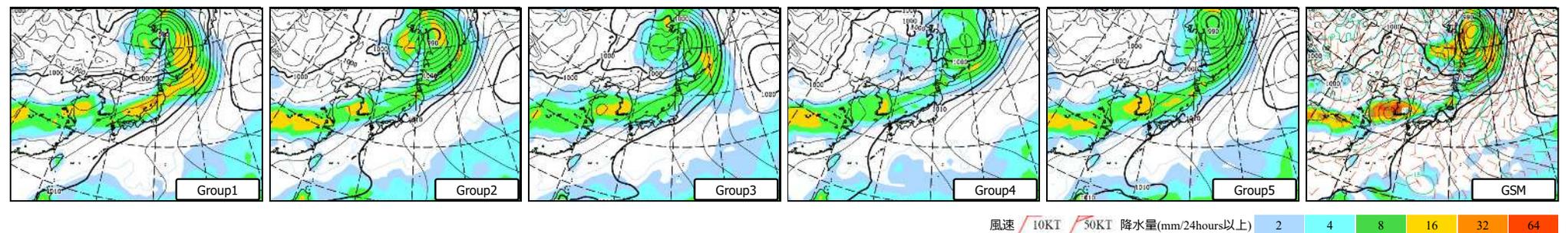


- 北日本と東日本日本海側では、曇りや雨の降る日が多いが、20日は晴れる所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、雲が広がりやすく、西日本では22日に雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は曇りや晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、20日から23日にかけて、オホーツク海から日本の東に進むリッジが強くなり、日本の東の高気圧が強くなった。21日から23日に沿海州付近からオホーツク海に進む低気圧が強くなった。
- 期間を通してスプレッドは大きくなく、中国東北区からオホーツク海に進む低気圧の位置もモデル間に大きな差はないが、期間末の前線の位置はモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。